

先の 4 月 19 日(日)に行われた新試験制度初回の実施となる平成 21 年春期の情報処理技術者試験について、基本情報技術者 / IT パスポート試験 / 初級システムアドミニストレータ試験の合格発表がありました。試験に関する統計データをもとに、全体の得点分布と合格率関連の情報をお知らせします。

基本情報技術者試験 (FE)

[平成 21 年春期の基本情報技術者試験 統計情報]

応募者	90,752 人
受験者	64,544 人
合格者	17,685 人
合格率	27.4%

今回平成 21 年春の応募者数は、昨年同時期の平成 20 年春とほとんど同じでした。今回の合格率は 27.4% で前回平成 20 年秋の 23.3% に比べて大幅に増加しました。旧試験制度も含めて過去最高だったのは 18 年秋の 24.2% ですが、それも大きく超えた高い合格率といえます。

今回、新試験制度で初めて行われた基本情報技術者試験は出題範囲が大きく変わりました。しかし、実際の出題内容には新設された IT パスポート試験と比べてあまり変化がなく、午後試験問題も従来傾向に比べて易しい問題が多かったと思われる、結果的に高い合格率につながったといえるでしょう。

今回の試験の傾向や特徴をまとめると、次のようになります。

[午前問題]

- ・新試験制度初めての試験で、マネジメント系、ストラテジ系問題はやや難しく感じられる問題でした。
- ・発表された得点分布から概算で平均点を計算すると約 59 点でした。
- ・過去問題の比率は全体の 6 割弱で、新制度試験でもあり従来より少ない数でした。
- ・新傾向または新しい用語に関する問題として、次のような出題がありました。

問 4 ランレングス符号化

問 10 シングルチップマイコンの特徴

問 19 ハードリアルタイムシステム

問 27 Web コンテンツのユーザビリティ

問 28 ヒューマンインタフェース設計

問 50 組込みシステム開発環境の維持管理

問 60 IT 統制の発見統制

問 61 エンタープライズアーキテクチャ

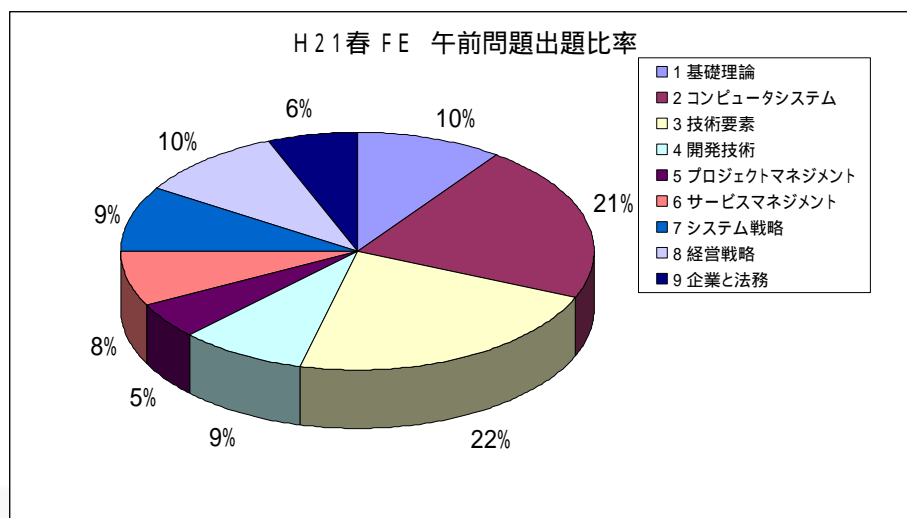
問 65 共通フレーム 2007 (システム化計画の立案)

問 66 共通フレーム 2007 (企画プロセスの目的)

問 71 TLO 法 (大学等技術移転促進法)

- ・今回の試験では一つレベルの高い応用情報技術者試験と同じ出題が 2 問、高度共通午前 試験と同じ出題が 1 問ありました。なお、最後の実施となった初級シスアドと同じ問題は 6 問ありました。

平成 21 年春期の基本情報技術者試験



(午後問題)

今回から大幅に出題内容が変わり，問 1～7 の知識の応用問題から 5 問選択で，問 8 のアルゴリズムが必須，問 9～10 のプログラミングの問題からは 1 問選択になっています。

なお，今回の新試験から，ユーザ側人材も受験できるように，プログラム言語として表計算ソフトが加わっています。

・午後問題の出題分野とテーマは，次のとおりです。

問	テーマ	出題分野
1	画像データの符号化	ハードウェア
2	ソフトウェア製品の品質特性	ソフトウェア
3	関係データベースの設計と操作	データベース
4	パケットフィルタリング	情報セキュリティ
5	銀行口座の管理	ソフトウェア設計
6	スケジュール管理	プロジェクトマネジメント
7	需要予測	経営・関連法規
8	画素領域の色の塗替え	データ構造及びアルゴリズム
9	相対パスから絶対パスへの変換 (C)	ソフトウェア開発 (プログラミング)
10	売上げ分析表の印刷 (COBOL)	ソフトウェア開発 (プログラミング)
11	簡易テキストエディタ (Java)	ソフトウェア開発 (プログラミング)
12	32 ビットの乗算 (アセンブラ)	ソフトウェア開発 (プログラミング)
13	月別生産計画の作成 (表計算)	ソフトウェア開発 (プログラミング)

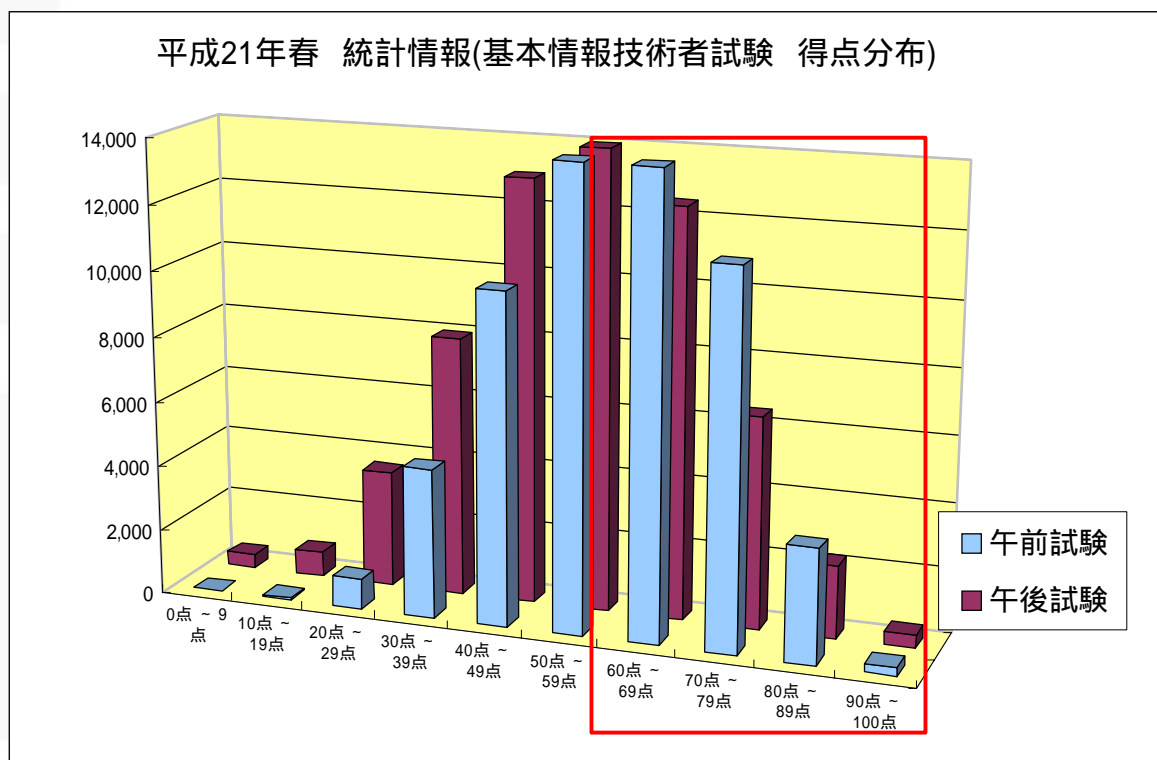
今回の午後試験内容は，平成 12 年秋以前の二代前の試験制度の時に出题されていたマネジメント系，ストラテジ系の問題が出题されました。いずれも内容的には平易な問題でした。テクノロジー系の問題が難しかった時のために，これらの問題も解答できる基礎知識を付けておきましょう。問 8 のアルゴリズム問題の難易度は普通レベルでしたが，問題もやや複雑で解答しづらい人も多かったと思われます。

プログラム言語の問題は，ここ数年易しい問題が多かったのですが，今回もどちらかといえば易しい問題でした。特に，表計算ソフトの問題は，サンプル問題よりも易しい非常に平凡な問題でした。

試験センターから発表された基本情報技術者試験の得点分布をグラフと合わせて示すと，次のようになります。なお，午後試験の得点人数は午前試験で基準点の 60 点以上の人と，午前試験免除者の人だけの統計データと思われます。

[平成 21 年春 統計情報(基本情報 得点分布)]

スコア	午前試験	午後試験
0 点 ~ 9 点	8	434
10 点 ~ 19 点	51	768
20 点 ~ 29 点	932	3,594
30 点 ~ 39 点	4,585	7,983
40 点 ~ 49 点	10,127	12,979
50 点 ~ 59 点	14,766	15,528
60 点 ~ 69 点	16,126	12,478
70 点 ~ 79 点	11,425	6,460
80 点 ~ 89 点	3,498	2,238
90 点 ~ 100 点	262	425
計	61,780	62,887
合格者数	17,685	合格者数との差
午前 60 以上合計	31,311	13,626
午後 60 以上合計	17,685	3,916



ここで、午前試験で合格基準点の 60 点以上の方が 31,311 人(50.6%)、午前試験が基準点以上で午後試験が合格基準点の 60 点未満だった人は 13,626 人(午後試験受験者の 21.6%)、逆に、午後試験が基準の 60 点以上で午前試験が合格基準点の 60 点未満だった人は 3,916 人(午後試験受験者の 6.2%)、います。今回の試験では午後の試験で失敗した方が非常に多いことがわかります。

午前試験ではあと 10 点に泣いた方が 16,126 人(全体の 26.1%) もいることから、試験前の仕上げる学習を確実に行って、幅広い知識を理解する必要があります。

午後試験では約 35% の人しか基準点に達していないので、まずは午前で出題される知識を深めること、問題演習を時間を決めて行うこと、模擬試験を受験して時間感覚を身に付けるなどして、実戦的な力を身に付ける必要があります。

(今回合格された人)

合格された人は、応用情報技術者試験にチャレンジされるのが適切と思われます。試験問題のレベルが一段上がるので、早めに学習することが必要です。特に新試験制度では午前試験の出題範囲が非常に広くなり、出題内容も大きく変わっていますので、早く学習することが大切です。

とはいっても、基本情報技術者試験の内容がベースになりますので、苦手分野や今回解けなかった問題などを中心に、まず、弊社テキストの「コンピュータシステムの基礎」で基礎力をもう一度付けて下さい。今まで読み飛ばしていたところも含めて、再度学習することが大切です。

学習にあたっては、アイテックで出版している予想問題集、本試験問題をご利用ください。また、受験対策のプロ講師が応用情報技術者の試験対策セミナーを行う「合格ゼミ」は好評を頂いており特にお勧めです。通信教育コースでは、午前試験対策テキスト、テストをすべて含んだ「応用情報技術者 総合コース」と、問題演習を中心に行うための最新問題集と模擬テスト(2回)を含んだ標準学習時間4か月の「応用情報技術者 速習コース」など、教育メニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

(今回残念ながら不合格だった人)

今回の午前および午後試験の得点が50点~59点だった人は、合格までほんとうに“あと一步”のところまで実力が来ていますので、身に付けた知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策を始めましょう。

また、今回の午後試験から従来のプログラム言語に加えて表計算ソフトの問題も出題されています。プログラム言語が苦手な方は表計算ソフトでの受験も検討しましょう。また、出題範囲に加わった新しい分野からの選択問題も増えるなど、いろいろ変更点も多いので、弊社で行っている通信教育コースの受講をお勧めします。

コースには、新試験制度に対応させて新規で作直した予想問題集や午後試験対策のテキスト「午後問題の重点対策」のほか、午前知識の基礎テキスト、テストをすべて含んだ「基本情報技術者 総合コース」と、問題演習を中心に行うための最新問題集と模擬テスト(2回)を含んだ「基本情報技術者 速習コース」があります。

その他、基本情報技術者の試験対策を受験対策のプロ講師がセミナーで行う「合格ゼミ」など教育メニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

各コースの内容は弊社のホームページからご覧いただけます。

<http://www.itec.co.jp/>

(以上)